

年頭のご挨拶

新年明けまして、おめでとうございます。本年も、新年をお祝いすることができ、誠に喜ばしい限りです。

昨年は、景気の底が見え隠れする中で、パブリックコメントを求めた予算編成が年末まで不透明であったなど何かと振り回された話題が多かった年でした。横浜国立大学は、第2期中期目標計画の初年度でもあった昨年、西沢教授のプリツカー賞（建築のノーベル賞とも言われる賞）の受賞に始まり、本学関係者2名（中西 準子氏・藤嶋 昭氏）が文化功労賞を授与されるなど、明るい話題もありました。そして何よりも、この春に改組し、新大学院・新学部（都市イノベーション学府・理工学部）がスタートすることになりました。

全国の国立大学で新学部設置となると、2010～2011年の2年間では本学だけであります。皆様のご支援のおかげと感謝しております。

年末に発表された新年度予算についても、パブリックコメントなどの成果が見られ、大学関係予算はほぼ従前どおりであり、生活費ともいえる教育研究経費に関しても0.5%程度の減にとどまりました。本学に関しては、実質的な学生定員の増と大学改革推進のための経費等の特別配分がありました。

法人化以降、運営に関して「今年も予算が減るので節約を」と訴えることが続いておりましたが、今年は何んとか予算の目途がたつ模様ですので、本年2011年の年頭にあたり「数年先を考えた活動を」と考えています。すべての面で昨年にも増して前向きに活動していきます。

先を見据えたという意味では、2003年に打ち上げた「はやぶさ」が7年かけて、小惑星のサンプルを持ち帰ってきた快挙がありました。JAXAがどんな思いで宇宙探査船を打ち上げ、7年間見守ってきたのかを考えると頭が下がる思いです。本学も、数年先あるいは7年先を見据えて、地道・着実な歩みを仕掛けていくことの重要性を認識しています。

学長就任以来、業務の効率化・合理化の必要性をお話してまいりました。それは、経費削減と教職員の創造性・企画力を高めるためのものであります。今年は特に、知恵を出し合って、日常的な業務の改善を視野に入れた企画提案をしていただき、これをできるだけ多く実現していきたいところであります。企画力を発揮するためには、教職員が心身ともに健康であることが前提となります。その意味で、教職員のメンタルヘルス、安心安全の向上も、今年は特に重要と位置づけています。

横浜国立大学で働く教職員の皆さんが気持ち良くポジティブに仕事していくことが、必ずや学生たちへの良い影響を及ぼすと考えます。また、社会の負託に応えられる必須要件でもあります。前向きにそして明るい横浜国立大学となるべく、伴に努力（とくにコミュニケーション向上）することを祈念して、私の年頭のご挨拶とします。

平成23年1月4日

横浜国立大学長

鈴木 邦雄